



中食・高齢化社会で床暖が注目される理由

本格的な少子高齢化時代に突入り、団塊の世代が70歳を迎えました。7年後の2025年には75歳以上の人口が2300万人を超え、という状況の中、その世代の人にとって需要が減るものの一つにキッチンが挙げられるのではないのでしょうか？

以前から住宅設備の代表と言えばシステムキッチンとシステムバスをセットで思い浮かべる方も多いと思います。しかし65歳を過ぎるころから、システムバスには根強い人気があっても、システムキッチンに対する購買欲がどんどん落ちていき、70歳になるとほとんどの方が「現状のままで良い」という選択をされるようになります。

これは、当社で実際に見られる光景ですが、ご主人が「立派なシステムキッチンを買ってもいいよ」と言っても、奥様が何の興味も示さなかったということはよくある話です。奥様の本音を言えば「あなたいつまで私に料理を作らせるの」といった気持ちです。これに比べてシステムバスは嫁いだ娘が孫を連れて帰ってきたり、以前は車で温泉に行っていたのが億劫になって自分の家の風呂で入るようになって、ヒートショックで倒れたりしないように温かい風呂や脱衣所を作りたい等、70歳を過ぎてもリフォームする必要があるようです。



▲簡易に施工できる上貼り工法

システムキッチンから温水床暖房へ

床暖房の提案は元氣な60代のうちに

こういった背景から使用する年数と頻度を考えると「100万かけてリフォームするならキッチンよりは断然温水床暖房」というところが、当社の結論です。さらに言えば、システムバスリフォームと温水床暖房は同じ給湯熱源機等を使用することから、セット販売につながりやすい組み合わせということが言えます。

では、どのタイミングで提案したらいいか？住みながらのリフォームは精神的、肉体的な負担も大きいことから、70歳になってからではなく、アクティブシニアと言われる60代のうちに今まで仕事一筋でできなかった旅行にあちこち行くのも良いけど「将来のことを見越して温水床暖房も含めたリフォームを計画されませんか」とぜひお勧めしたいものです。

しかし、施主から希望がなければ、温水式床暖房を積極的に進めている事業者はまだまだ少ない。そこで、今回から6回にわたって温水床暖房の可能性と販売ノウハウについて連載をしていきたいと思えます。

温水床暖房専門工事会社
ネットワーク
FHS本部代表

リボンガス株式会社(熊本)
内海 久俊社長

昭和32年生まれ。同志社大学卒業後、ミサワホームで営業・設計の経験を経た後、有限会社内海燃料店を引き継ぎ、CIにて平成4年リボンガス株式会社に改組。平成6年より環境リフォーム研究所として、リフォーム事業の新しいビジネスモデルを構築。地域密着型の住環境サービス業として4,000件以上の顧客を有している。平成14年に温水床暖房FHS事業部設立、九州から全国へ向けて床暖房事業を展開。平成25年より温水床暖房の販売・施工の全国チェーンとしてFHSネットワークを開始。平成26年に土足空間用温水床暖房ECO-HRを開発。熊本県の経営革新承認、平成27年ECO-HRαを開発、熊本市ものづくり大賞を受賞。